

団体名	まごころキッチンプロジェクト
事業名	食を切り口とした地域と連携した防災啓蒙活動

目的・背景

ここ数年、コロナ禍で在宅時間が増え在宅避難について考える機会が増えました。今まで避難所に避難すればいいと思っていた人々が在宅避難を考えるようになり、在宅避難の知識を必要とするようになりました。いつ、どの季節に災害が起きるか分からないからこそ、春夏秋冬の旬の野菜を使ってレシピを考え、災害時の食事を身近なものとして関心を持ってもらうため川崎の野菜を使い調理をし、また、家族会議の必要性などを知ってもらうため、防災啓蒙活動を行います。

事業の効果

川崎の野菜を使うことで川崎の野菜を知ってもらうことに加え、その季節の旬の野菜を使って調理をすることで、災害時の食事を今まで以上に身近に感じ、関心を持ち参加してくれることが期待できます。普段家にあるものが、平常時であれば「普通に使うもの、普通に使い食材」かもしれないが、災害が起きた時はその「普通」のものは全て「備蓄品」となるということを意識してもらい、発災した時に生かせるようにしてもらいたいです。

小冊子には今年度開催した事業も含め、今まで開催した講座や他県の防災団体のコラムなどを掲載し、地域コミュニティ作りの参考にもしていきたいです。

実施結果

新型コロナウイルス感染拡大により実施計画通りに開催できない、病気発覚により手術をすることとなり実施計画通りに開催できないなどありましたが、会場を変える、日程を変えるなどできる限りの対応をしました。講座の参加者によるアンケート結果を見ると、「大変役に立った」「次回は別な内容で開催希望」の解答が多数を占め、今年度開催しなかった内容の防災講座も希望する方がたくさんいました。親子で参加されると思っていた講座が全て大人だけの参加者になった講座もあり、防災、在宅避難に関心を持ち始めている方が今まで以上に増えてきたのではないかと考えています。小冊子は全国幅広く問い合わせがあり、ご希望の方には郵送することができました。

事業の課題と今後の展望

今年度は体調不良が重なってしまい、編集作業などがドクターストップとなってしまいました。その結果、オンライン関係を全て中止にしたので、また機会があれば YouTube などにも挑戦してみたいと思っています。今年度は町内会や企業様から防災講座の講師依頼がととも増えたので、今まで以上に地域連携の課題や、その地域に必要な備え(食だけに限らず)などを学び、本職でもある高齢者(介護)と防災を今まで以上に強くしていければと思います。

そして、災害時のライフラインが止まった場合に作ることができる食事のレシピを増やし、どの年代の方にも対応できるような小冊子を作り、たくさんの方の災害時の食支援ができればと考えています。



10月防災料理講座～秋～



10月防災料理講座～秋～



冊子掲載 カレーとご飯の食べ比べ

団体名	かわさきミュージックチャレンジ
事業名	第3回 誰でもチャレンジコンサート

目的・背景	事業の効果
<p>社会生活における様々な場面でのノーマライゼーションが提唱されており、行政レベルや市民レベルで少しずつ浸透しているように感じられる。障がいの有無やスタンスに関わらず音楽などを楽しむ一体感を味わい、ノーマライゼーションへの理解を深めたい。</p> <p>出演者はステージで多くの人の前で演奏することを目標にすることで、日々の生活に活気を与え、披露することで達成感を味わい、喜びと自分への自信につながる。またご家族もポジティブマインドを持っていただきたい。会場で繰り広げられる表現の自由の喜び、楽しさを出演者のみならずご来場とも分かち合うことにより、お互いをリスペクトし合い、自分らしく生きていくきっかけを得てほしい。「ともに生きる」社会の実現をこのコンサートからアプローチする。</p>	<p>【アンケートより事業目的が達成された考察できるコメントの抜粋】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・我が子のピアノにも感動しました。 ・会場の皆さんと一緒に作っていくという雰囲気が良かった。 ・ラン&ピカ(盲目の方)の演奏は歌声も心に響き、心に刺さりました。ご本人にお伝えすることが出来たのでそれも良かった。 ・それぞれの演奏の方が一生懸命で、それだけで胸がいっぱいでした。 ・愛のあふれる会場で心が温まりました。 ・最後の風になりたい(出演者来場者の全員参加での合奏)を皆で楽しめた。 ・みんな成長している姿に感動です。
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>第3回目となり、実施は安定してきた。障がいのある方やご家族からもこのコンサートを楽しみにしている、励みにしている、との声が多く届いた。今回は3組の初参加の応募があり、少しずつではあるが認知度が広がっている。コロナの陽性者の拡大があり、1組は辞退、参加人数を減らしての参加団体が1組あった。ご家族等もご来場できなかったため、会場への集客数アップには至らなかった。しかし、この団体の提案により、参加できなかった方々とその団体のパフォーマンス時のみ ZOOM でつないだ。今後参考にしたい。ZOOM 参加を含めると数値目標来場者 100 名に達したと思われる。終了後出演者と来場者との交流の様子が多々見られた。目的の達成がなされたと感じている。</p>	<p>コンサートの安定の反面、同じようなスタイルのコンサートになっている。障がいのある方にとっては、同じスタイルは安心できるものでもあるのも事実であるが、もっと多くの方と輪が広がっていくため、現状のスタイルに加えてコラボや WS 的な要素を取り入れたいと考えている。今後、多くの方や団体と繋がりをつくり、新たなプログラムを取り入れたい。毎回資金面での自立は問題になる。有料開催とすると会場費が2倍程度となり、より支出があがってしまう。新たな取り組みにあたってより知識を取り入れるためにも、メンバー個々のスキルアップ、新たなメンバー募集など団体自身の力をつけていきたい。</p>

		
出演者集合写真	全員で合奏「風になりたい」	初出演「ラン&ピカ」

団体名	川崎市民交響楽団
事業名	創立 70 周年記念演奏会 ーいい音楽を深く味わう、楽しい音楽を全世代で味わうー

<p>目的・背景</p> <p>クラシックコンサートに未就学児を持つ家族が入場できることは極めて少ない。例えばミュゼ川崎シンフォニーホールで2021年11月から2022年2月に開催される約50回の公演のうち、未就学児が入場可能なコンサートは1回であった。子どもを持つ家庭でコンサートへ行くことの障害となっているのは、①未就学児の入場制限、②館内で静かにし続けることのプレッシャー、③子どもと保護者で行く時の入場料負担と考える。</p> <p>より多くの方に生のクラシック音楽に気軽に触れていただけることで、日常生活をより豊かなものにしていただくことを目的に、入場年齢制限をはずして未就学児を含む全年代を対象とし、入場料を大人は通常の半額に、高校生以下は無料とするコンサートを企画した。</p>	<p>事業の効果</p> <p>未就学児を持つ家族を含む親子の入場は、全体の5%、高校生以下の入場は、11%であった。</p> <p>アンケートからは、入場料は適当であることがわかる。また、コンサートを楽しめた、演奏会に来てよかった、地域に開かれた演奏会である等、いらして下さった方の満足度は高かった。</p> <p>未就学児でも入場できるコンサートをやってほしいとの希望が多く寄せられた。</p> <p>富士見中とのジョイントステージは、中学生にも、保護者にも、先生方にも喜んでいただけた。</p> <p>市民館、図書館他市の施設へチラシを配架したが、チラシで演奏会を知った人が、25%程度いたことから、効果は大きい。</p>
<p>実施結果</p> <p>未就学児を持つ家族を含む親子の入場(チケット記入分)</p> <p>春 5%(未就児 10 総数 444)</p> <p>秋 10%(未就児 31 総数 648)</p> <p>高校生以下の入場</p> <p>春 11%(小～高 50 名) 秋 11%(小～高 72 名)</p> <p>(以下はアンケート回答分)</p> <p>入場料は適当</p> <p>春 95%(98/アンケート総数 103) 秋 90%(106/118)</p> <p>コンサートを楽しめた 春 95%(98/103) 秋 101%(119/118)</p> <p>演奏会に来てよかった</p> <p>春 122%(126/103) 秋 108%(127/118)</p> <p>地域に開かれた演奏会である</p> <p>春 90%(93/10) 秋 97%(117/118)</p> <p>未就学児でも入場できるコンサートをやってほしい</p> <p>春 83%(86/103) 秋 83%(98/118)</p>	<p>事業の課題と今後の展望</p> <p>未就学児を持つ家族を含む親子の入場、高校生以下の入場は、目標の30%に届かなかった。春は幼稚園12園、秋は幼稚園5園、小学校10校、中学校15校、高校1校に招待券をお送りした。そこからの来場者は3.5%であった。目標の設定、広報に関しては、さらに広く情報を収集し、適切、最適な方法を考えていきたい。</p> <p>アンケートから、来場者の満足度、喜びは高いと言える。今後も音楽を通しての市民の心の豊かさの醸成とウェルビーイングの実現を目指したい。</p> <p>未就学児でも入場できるコンサートをやってほしいとの希望が多く寄せられたことから、未就学児までを対象としたコンサートを、今後も計画したい。</p>



春はソリストにN響市川さんをお迎えして



秋は富士見中学校の生徒さんと一緒に



麻生養護学校の生徒さんと演奏会の受付

団体名	かわさきくコミュニケーション・ボランティア(こみゅぼら)
事業名	翻訳・通訳コミュニケーションボランティア活動事業 派遣可能な多言語コミュニティ翻訳通訳ボランティア育成事業

目的・背景

外国人に対して優しい地域社会は誰もが住みやすくなる地域社会になるはずである。
 翻訳・通訳コミュニケーションボランティア活動事業、派遣可能な多言語コミュニティ翻訳通訳ボランティア育成事業の実現で、外国人も日本人もありのまま、自分らしく共に生きられる社会になる。
 外国人に対して優しい地域社会は誰もが住みやすくなる地域社会になる。

事業の効果

- ・依頼者である外国人自身の安心感により、地域で住みやすくなる・依頼者は言葉などで困ったときに気楽に依頼ができ、日常生活多言語情報を手軽に得ることが可能になる
- ・翻訳・通訳ボランティアにより、病院・役所・保育園・介護施設・障がい施設で働いている方の多文化又は多言語コミュニケーション必要性などに関する意識が高める。

実施結果

- ①多言語コミュニティ翻訳通訳ボランティア派遣活動事業
- ・年間延べ件数通訳 350 件 翻訳 25 件
 - 依頼者へのアンケート結果依頼満足度（やや満足・満足 100%）、こみゅぼらみたいなボランティア活動継続性に関する質問に対して 100%はい、今後も依頼しますかの質問に92%はいの結果
- ②派遣可能な多言語コミュニティ翻訳通訳ボランティア育成事業
- 研修・勉強会 2 回実施 延べ 15 名参加
- ・延べ人数ボランティア 13 名登録につながる結果
- 2022 年度登録ボランティアへの聞き取り調査 3 名実施（ボランティア活動継続登録 100%）

事業の課題と今後の展望

- ・多言語コミュニケーションボランティア活動ニーズは高める一方でボランティア確保・スキル・行政などの支援が低い
- ・多言語コミュニケーションボランティアとして活動はできなくても、事業活動の意味を理解し、賛同してくれる仲間を増やすことで自立度が高まる。
- ・SMS によるやさしい日本語情報普及
- ・多言語コミュニティ翻訳通訳ボランティア同士での事例検討・情報共有によるスキルアップ自立化と依頼者もボランティアの力を借りることにより自立化につながる



新川橋表病院での通訳
(血圧測定場面)



市立病院での通訳
(診察場面)



川崎協同病院通訳
(検査結果説明場面)

団体名	一般社団法人 ピッカ
事業名	インクルージョンセミナー & ワークショップ ～障がい児とそのご家族の為にスクールのフェス～

目的・背景

■障がい児が一般社会から排除されずに個人の状態に合った合理的配慮の提供を受けられる仕組みの整備が求められている。1981年の国際障害者年を境に「統合教育」と呼ばれる「保育・療育(障害)」「保育・教育(健常)」間で少しずつお互いを受け入れる体制は整った。そして子どもの存在を包括的に考え障害の有無では無く、子どもの個性やニーズに合った教育システムとして生まれたのが、昨今の潮流である「インクルージョン」だ。「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」の基本理念に、「障害の有無にかかわらず文化芸術を鑑賞し、これに参加し又はこれを創造することができるよう障害者による文化芸術活動を幅広く促進すること」とある。

■本事業によって、特別支援学校が無い宮前区や多摩区でも、文化芸術活動を幅広く促進しながら、且つ障がい者等社会的弱者を排除しない「ソーシャル・インクルージョン」により近付けるモデルケースとなるでしょう。

事業の効果

■障がい児のご家族と保護者さまは、同様の子育てに携わる他のご家族とのふれあいや、有識者による講演でのセミナーとミニコンサートや落語、マジックショー等の観覧でリフレッシュ効果が期待出来る。■障がい児は、世界を舞台に活躍する芸術家のパフォーマンスや指導を地域の福祉システムと連動/協働することで、その触れ合いはより市民や各団体に身近に親密になり、子どもの将来が生まれ育った環境で左右されない子どもの貧困対策としても、共生社会を目指すインクルージョンとしても、本事業は1つのモデルケースの推進へと繋がる。■本事業のコースはどれも「演劇」「芸術」等、舞台芸術とアートの表現方法を活用したワークショップが主だ。

■子どもたちの自尊感情や自己肯定感を育み、生活する地域の実社会での生活や就学・就業等の課題へ取り組む姿勢を生むためのきっかけ作りも目指す。

実施結果

2/19は中止になったが、2/23は無事に開催実施。セミナーへの参加者：ダンス参加者：15名、バレエ参加者：8名、マジック参加者：14名、アート参加者：13名等、大盛況だった

2/23 参加の保護者さま:33名及び福祉関係者:7名から収集した結果

●障がい、健常が関係なくインクルージョンとして意義を感じ、更に楽しくリフレッシュ出来ましたか？

・とても思う:94% ・思う:6% ・思わない/分からない:0%

●参加の子どもたちに自尊感情や自己肯定感が育まれたと感じますか？

・とても思う:97% ・思う:3% ・思わない/分からない:0%

事業の課題と今後の展望

■今年度の参加者全員(子どもたち&保護者さま及び関係福祉関係者)から「次年度の開催」に関して訊ねられ、そのリクエストに応えたいとスタッフ&講師、ご協力頂いた関係各位含め、その一同で来年度、R5年度の事業実施に向けての検討を行ったが、連続で2年目としての申請は諸事情により断念した。

■だが R6年度の事業実施に向けての準備や、協賛や助成をしてくれる企業(県内のIT関連企業、工業系会社、都内の大手芸能事務所等)へアプローチは今後も変わらず続ける。

採択して頂き、本当にありがとうございました。



オリエンテーション&セミナー



アート教室での子どもたち



ダンス教室での子どもたち



ショータイムでの落語

団体名	なかはらミュージカル実行委員会
事業名	第10回なかはらミュージカル

目的・背景

武蔵小杉駅周辺の再開発等により人口流入が著しい川崎市中原区において、新たな地域コミュニティーの形成をはかり、新旧住民並びに世代間の交流を促進すること、郷土の歴史・風土に根差したオリジナル作品の創作を行う事により、参加者の郷土への愛着を涵養し、次世代の地域活動の担い手となる青少年の育成を行うことを目的として開催している市民参加型のミュージカルです。これまで8回の本公演では毎回約1,200名の観客動員を誇っている。この10年目の活動にご支援をいただく。

事業の効果

- ・自己表現の経験
ミュージカルの出演を通して、芸術活動および自己表現を経験する。
- ・幅広い年代の方に参加いただくことによって、世代を超えた交流の場となる。
特に、子どもたちには、親でも先生でもない大人と同じ目的をもって対等に活動することによって、世の中に存在する様々な生き方や考え方を知ることができたり、困った時の逃げ場(頼る先)を増やすことができる。
- ・なかはらミュージカルへ興味を持ってもらうことによって、公演のテーマである「中原区の歴史や文化」について知ることができる。

実施結果

【参加者】

- ・参加人数 61人
- ・参加者の年代 小学1年生～65歳
- ・参加者向け歴史勉強会の実施 2回
8月27日 講師 対馬芳氏「川崎大空襲」
1月21日 講師 古尾谷崇氏「学童疎開体験講話」

【観劇者】

- ・有料観劇者／総席数＝1055人／1151席（91.7%）
- ・観劇者アンケートの実施
作品の評価
本公演の満足度 とても満足 91.1%
地域の歴史・文化への興味の向上
中原区の歴史について興味を持ってましたか？
大変興味を持った 68.9%
やや興味を持った 27.7%

事業の課題と今後の展望

出演者、保護者、観劇者へのアンケート結果からは、異世代の交流の意義や中原区の歴史的事実(今回は中原の桃と川崎大空襲)に根差したオリジナルストーリーから得た地元への関心の高まりがうかがわれたことは大きな成果と考えられるが、60名を超える市民参加による本格的なミュージカル制作には長期間にわたる稽古や、その場所の確保が必要であり、活動を支える運営スタッフ、ボランティアにも負担が大きいものとなっている。

一方で、活動が10年を超えることのでかつての子どもキャストが成長し、今回は小道具の制作や本番の舞台設営などの裏方での活躍があった。今後の運営スタッフのメンバー構成についてはこうした世代を取り込んでいく必要がある。



桃の神様とともにふるさと中原を歌う



軍隊の狂騒に戸惑う子どもたち



疎開先の子にもお手玉を作って送る

2022年度かわさき市民公益活動助成金 事業成果PRシート

ステップアップ助成

団体名	FUTURE DESIGN
事業名	かわさき学校外で育つ子どもの居場所(街のとまり木)マップ制作

目的・背景

不登校児童生徒数はコロナ禍の学校休校などをきっかけにこれまで以上に増加し、川崎市では2020年度の長期欠席児童生徒数は2177人にも達します。一方で、川崎全市にある不登校の子ども向けの居場所は11箇所しかなく、不足しているのが現状です。弊団体が不登校の子ども達に実施したアンケートでは75%が平日の昼間の居場所へ行くことを希望しています。しかし不登校の子ども達の居場所の情報は不足しており、多くの親子は不登校になった途端に地域で孤立してしまいます。弊団体は不登校の子どもと保護者に居場所を紹介するサイト「街のとまり木」で4年間に約400団体を掲載してきました。サイトをきっかけに居場所を利用するようになった子どもたちがいる一方で、不登校の親子の多くは心身共に消耗し能動的に情報収集することが困難なため、ネットの情報にアクセスしづらい現状があります。そこで川崎地域の不登校の子どもと親の居場所を紹介するマップを制作し、親子が立ち寄りやすい可能性が高い社会教育施設等や在籍校、総合教育センター等で配布しました。配布後には事業効果を測定し、マップを改善して他の市区町村へ事業を拡大することも計画しています。

事業の効果

配布後に実施したアンケート調査から、以下の効果がわかりました。

- ・配布から期間が少なくまだ限定的ではありますが、配布した家庭の75%の保護者が訪問検討先を見つけ、半数程度が子どもと対話や実際の訪問を行っており、外部へ踏み出す第一歩の実現が始まっています。
- ・マップの配布により、保護者が居場所や行政のサポートを認識したり、子育てに対する自己肯定感や有用感の向上に繋がっている可能性がみられました。
- ・一方で、保護者の孤立感の解消については十分ではありませんでした。
- ・マップに対する保護者の満足度は高く、保護者のニーズに沿った事業だったと言えます。
- ・上記から、マップの配付保護者に対して一定の効果があつたことがわかりました。一方で孤立感の解消のためにはマップだけでは限界があり、それ以外のアプローチと組み合わせで継続的に取り組む必要があることがわかりました。

実施結果

・川崎市内の子ども文化センター、市民館、区役所、総合教育センター、ゆうゆう広場及び市立小中高各種学校等、322箇所へ川崎地域マップ及びポスターを配付しました。

・マップの効果を確認するアンケート調査を、川崎市こども未来局青少年支援室及び市内の不登校親の会の協力を得て、川崎地域マップ掲載施設及び利用者に対して実施しました。

対象施設:

- こども文化センター(全59館)
- ゆうゆう広場 全6ヶ所
- 総合教育センター溝口・塚越相談室 2ヶ所
- 馬絹児童家庭支援センター
- その他各とまり木(マップ掲載連携団体)

アンケート内容は、川崎地域マップ記載の居場所利用状況、利用前後の変化等です。

事業の課題と今後の展望

・本事業で実施した評価アンケートの分析結果に基づき、地域マップの改善点を検討し、マップの改訂版を制作し、公共施設や学校等で配布します。

・本事業の事業効果測定で必要度が高かったこども文化センターの居場所事業を新たに開始します。

・第三に、本事業の事業効果測定でわかったこども文化センター職員への不登校の理解を深める研修などについて関係部局への政策提言等を行う予定です。国会多様な学び議連の集まり等においても本事業マップ及び報告書を活用し、他自治体への拡大を目指します。川崎市内では高津区の子育てマップに本事業掲載内容の掲載が決まっており、他区への拡大を目指します。

・次年度においてもマップ配布後と居場所事業後にはマップ利用者や居場所利用者にアンケートを実施して事業効果を検証することで、川崎地域マップを改善し、翌々年度も他市町村へ拡大させる、居場所事業を全市に広げることを計画しています。



納品された街のとまり木マップ



マップ仕分け作業



配布先の川崎市市民文化局にて

団体名	こどものまちミニカワサキ実行委員会
事業名	こどものまちミニカワサキ 運営会議、子ども会議、子どもワークショップ

目的・背景

川崎市内の小中学生の多くは、学校や習い事、塾で忙しく、地域の仲間と一緒に自由に遊ぶ時間が限られている。その一つの要因として、子どもを育てる大人の側が、子どもの自己肯定感を育てるような目線や、子どもたちの育つ環境への関心が薄いことが多いからではないかと考えている。「こどものまちミニカワサキ」は、自分を表現したり、自分の意見や考えを表しながら、「まちづくり」という社会活動に参加する力を育むこと、また、その活動を大人が支え、機会を提供することで「大人と子どもが、支えあい、まなびあうまちをつくる」ことを目的に活動している。

本事業は、10月開催のイベント「ミニカワサキ」を実施するための運営会議、子ども会議、実施に関係する技術を身に付けてもらうための「子どもワークショップ」を実施した。

事業の効果(一部抜粋)

- 子ども会議への大満足/満足と答えた人は、94%にのぼり、「自分のやってみたいこと」を実現することで参加した子ども達の自己肯定感を伸ばすことができた。(アンケート結果より/別添報告書 19P 参照)
- 昨年までの活動の中でのつながりから、協賛、協力団体が増えた。夏休み子どもワークショップでは、地域で活動している方に講師にきていただくことができた(ソーシャルキャピタルの醸成)(別添報告書 7P 参照)
- 次年度を希望する保護者が18名という回答を得た(ソーシャルキャピタルの醸成、共育の機会の提供/アンケート結果より/別添報告書 19P 参照)

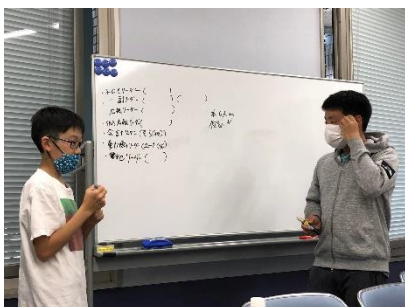
実施結果

準備活動の中心となる夏休みの期間中(2022年7月、8月)に川崎市市内でもコロナ感染が拡大し、子ども会議参加メンバーだけでなく募集する「子どもワークショップ」の募集や、活動が制限されてしまった。しかし、9月からは急激に社会情勢も変わり、念願であった会場でのミニカワサキの開催を10月に実現することができた。

昨年度までの、コロナ禍での活動制限の間の試行錯誤やネットワークづくりが実を結び、協力団体が増え、認知度も向上した。また、子ども会議者のうち、次年度も参加したい子どもは25名、ボランティアを希望保護者18名との回答を得るなど、次年度以降の活動への希望を感じられる事業を実施することができた。

事業の課題と今後の展望

- コロナ禍の影響はあったものの、会場でのミニカワサキを開催することができたため、事業収入を得ることができたほか、実績、認知度も上げることができた。次年度以降、川崎市をはじめとする行政機関、川崎市を拠点とする企業などの団体との連携を深めていくことで、事業収入の安定化を目指し、自主財源と協賛金で開催できる体制にしていきたい。
- 当団体主催で川崎市7区での開催を広げることよりは、「大人と子どもが、支えあい、まなびあうまちをつくる」機会として、「こどものまち」のプログラムが認知されることに力を入れる。様々な地域団体等で開催ができるよう、認知度の向上や、主催団体へのノウハウ提供や支援ができる体制を目指していく。



運営会議では子どもが主役で、ファシリテートや板書も担当



子ども会議では初めて会う子とチームを組んで楽しみながら「まち」をつくっていった



子どもワークショップでは地域の講師に技術や知識を教えてもらった

団体名	みんなのさいわい
事業名	NPO・地域団体へのプロジェクト型中間支援

目的・背景	事業の効果
<p>地域課題の解決を目指して活動している NPO・地域団体の基盤強化をプロジェクト型で支援することにより、支援先が目指す団体に少しでも近づくように支援する。</p> <p>プロジェクトに参加するプロボノワーカーが高い意欲を持ち、継続的に参加してもらえるために、環境を整備して、高いアウトプットが出せるようにする。</p>	<p>① 支援先のコメント：みんなのさいわいからご支援を受けて、このいくつか助成金を受けることができました。養蜂活動が忙しく、助成金の申請や報告書をお願いしているだけでなく、活動に沿う支援先を探していただけなので助かっています。</p> <p>② 支援先のコメント：みんなのさいわい様には団体設立初期からお世話になっております。今年度ファンドレイズのサポートをしていただき、複数の助成金に採択されました。事業の実施計画案作りから助成金資料の作成まで幅広く支援していただいております。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>達成目標①：川崎市内の支援先 1 団体(匿名希望) 測定方法： SNS にて発信した。コメント：目標の3 団体には、届かなかったが、1 団体の支援ができました。匿名希望とのことなので、情報発信の効果が、十分に発揮できなかったと考えています。</p> <p>達成目標②：参加した支援先およびプロボノワーカーの満足度の平均：8.13 点。(10 点満点) 測定方法：プロジェクト完了時にアンケートを行い、確認しました。コメント：満足度は、プロジェクト及び個人で差異がありました。(6 点から 10 点)。今後の活動に活かしたいと思います。</p>	<p>① 課題：持続可能な団体としての財政基盤を確立すること 展望：事業収入・助成金収入・会費収入の3つのバランスが取れた団体を目指します。</p> <p>② 課題：代表に業務が集中しているの、代表のキャパ=団体のキャパになっている。 展望：団体内に、ファンドレイジングチームを作り、代表の負荷を軽減する。「ご意見番会議（アドバイザーボード）」を作り、団体の意思決定に代表以外の3名が関わるようにする。</p>

		
<p>銀座ミツバチプロジェクトさまとの会議</p>	<p>NPO 法人 Trellis さまとの会議</p>	<p>NPO 法人 一期 JAM さまとの会議</p>

団体名	特定非営利活動法人なかよしの花
事業名	地域とともに歩む交流イベント及び地域貢献事業

目的・背景

- ① 重度障害者のグループホームは川崎にまだ数カ所しかない。イベントなどで参加を増やし、知る機会を増やすことで障害や障害者を身近に感じてほしい。なかよしの家で障害者が普通に日常生活を送っている姿を地域に知ってもらい、支えあう差別のない地域づくりにつなげたい。
- ② 今一つ、すぐお塾は参加者を増やし、遊びを通して子どもの育ちを支援していき、子どもたちが障害者と自然に交流し、身近に感じ、当たり前を受け入れられる地域づくりにつなげたい。
- ③ SNS や動画を通しイベントやなかよしの家で障害者が普通に日常生活を送っている姿を地域や広域の人々に知ってもらい、障害者を知ることで差別のない地域づくりにつなげる。

事業の効果

- ① イベントでスタンプラリーを行い、自然となかよしの家を訪ねる企画が持てた。また障害を理解してもらえるようなパンフレットを発行し、地域、関係者に配布できた。イベントのリピーターが増え、「今日は〇〇さんいる?」「一緒にポッチャやろう」などの声があり、障害者を身近に感じ、障害者への理解やグループホームの認知度を前年度よりも高められたと実感している。
- ② すぐお塾はおもしろ教材を作成し、提供した。子どものリピーターも増え、一緒に教材づくりを行い、グループホームの紹介を行った。
- ③ SNS・動画配信を定期的に行った。その結果見学希望や新たな層(企業、団体)からの問い合わせ、講演や撮影依頼、見学者と交流を行った。

実施結果

- ① なかよし縁日はコロナ禍もあり参加人数は65名であった。当初予定にはなかったが、ミニミニ遊びランドでは親子70名が参加した。ハロウィン、クリスマスなどのイベントでは約100名の参加があった。イベントのリピーターが増えた
- ② すぐお塾ではおもしろ教材を作成し、42名に提供し、ミニミニ遊びランドのすぐお塾には約40名の親子、なかよし縁日では10名の親子が参加した。
- ③ 動画配信はユーチューブやInstagramに月7~8回アップした。質、フォロワーともに向上した。問い合わせや相談などの反応があった。

事業の課題と今後の展望

- ① ともにカフェなどに参加することで、市内の様々な分野の市民団体と知り合い、地域でコラボ企画が実現した。ホットスペース・和とは地域の親子対象のミニミニ遊びランド企画を継続したい。
- ② すぐお塾はこどもたちに広げ、学校等と相談・連携し発展させていく。楽しく参加できるおもちゃ作りとともに引きつづき障害者の生活の理解を広げていきたい。
- ③ SNS・動画配信を出来るスタッフを増やし、フォロワー数を増やしたい。動画を通しての交流を拡げ、見学や相談に応えられるようにしたい。



対面で水鉄砲づくり



なかよし縁日集合



ミニミニ遊びランドにて

団体名	NPO 法人 SoELa
事業名	川崎の生態系カードゲームによる子供向け環境ワークショップの開催

目的・背景

地球環境問題は、人類が抱える解決しなければならない喫緊の課題です。国内でも地球温暖化による自然災害の拡大など身近な問題になってきました。そこで次世代を担う子供達に啓発活動を行うことにより将来自ら行動を起こし環境問題を解決していこうとする若者で溢れる世の中になることを目的にマイアース環境啓発事業を展開します。

事業の効果

・川崎の子供たち

地球温暖化と生態系に及ぼす因果関係、人と生態系、地球環境との関係性などを自然と学び行動に変えていくことができます。

・高校生、大学生ファシリテータについて

子供たちと学ぶことにより地球環境や生態系への興味を抱きます。

・川崎市の子供向け施設

マイアース多摩川の生態系パッケージにより、地域に根ざした教材を制作します。

実施結果

◇体験会のアンケートにて

・川崎の子供たち

楽しかった。水枯れが怖いと思った。人の活動が生き物に影響していることがわかった。海の生き物も好きなので作って欲しい。環境のことが少し分かった。多摩川は外来種が多いことがわかった。マイアースカードを買いたい。

・保護者

このように親子で楽しめる教材は良いと思った。自分が環境問題に興味を持った。子供が遊んでいるカードゲームの面白さが分かった。

事業の課題と今後の展望

課題は資金と実施してくれる学生の確保です。カードゲームの印刷はまとまった資金が必要です。多くの子供たちに体験してもらい地球環境に興味関心を持ち行動に移していくことを達成させるためには、多くのパッケージを世の中に出していきたいと考えています。対策として今後は企業の協賛などでNPOとしてマイアース事業を自立させていくこと、大学のゼミや高校の部活と連携するなど学生を確保していきたいと考えています。

今回の多摩川パッケージは川崎市との連携も確立したため、他の自治体にも働きかけた結果、来期は釧路町、北杜市、北九州市で同様の座組みで展開できることとなった。川崎の充実とともに全国へマイアースを拡大し全国の子供達に地球環境を啓発していきたい。



高津高校生制作のマイアース多摩川パッケージ



すくらむ 21 まつり



川崎市水辺の楽校シンポジウム

団体名	NPO 法人はたらくらす
事業名	「やってみたい！」が「できた！」「わかった！」になる 探求学習プロジェクト

<p>目的・背景</p> <p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが好奇心・向上心・創造性を発揮できる場の提供 ・子どもが主体的に社会とつながり本物に触れることのできるプログラムの提供 ・関わる大人が子どもへの理解を深めるための会の開催 <p>【背景】</p> <p>企業や個人事業主の方は、「地域連携」をどのように取り組めばよいのか課題を感じており、保護者は子どもに主体的な学びをどのように提供したらよいのかを悩んでおり、子どもたちの中には学ぶ意味を見いだせずに受け身の姿勢で学んでいる子どももいるという現状があり、それらは「繋ぐ」ことでいずれも解決に向かえると考えた。</p>	<p>事業の効果</p> <p>一例となるが、参加者からは「プロの職人さんの仕事が見られて本物に触れられる貴重な体験だった」とのお声もあり、個人事業主様からは「小さい頃から庭師という職業を知ってもらいたい機会になっている」「また来年もやれたら」とのお声もある。</p> <p>また、「子供が初めて虫をとりました。普段はゲームばかりなのに、目をキラキラさせてこんなのが見たい！と虫や花をとりに行く姿を見て嬉しかったです。（高学年）」というお声からも分かるように、主体的に取り組むことで得られる喜びや、楽しさを感じてもらえるきっかけになっていると考えている。これらのことから、自らチャレンジしていくことで広がる学びの楽しさを本プロジェクトではならい通りに作り出すことができたと考えている。</p>
<p>実施結果</p> <p>延べ 67 名の子どもたちに参加していただいた。</p> <p>また、そのうち 24 名の保護者の方には子どもへの理解を深めるための関わり方に関する学びの場にもご参加いただき、学んだかかわり方をプログラムの中で実践していただいた。</p> <p>さらにはその保護者の皆様に実践を振り返っての自己評価アンケートも実施したが、おおむね高い評価をご自身にされていることがデータから読みとることができる。</p> <p>上述のことと事業の効果も踏まえると、地域課題を背景として立ち上げた本プロジェクトは、当初掲げた【三つの目的】が達成できるプログラムとして実施することができたといえる。</p>	<p>事業の課題と今後の展望</p> <p>【事業の課題】</p> <p>子どもたちにかかわってくれる大人スタッフを増やすとともに、そのスタッフの育成が課題。</p> <p>【今後の展望】</p> <p>広げた人脈の中から定着してくれる大人子どもスタッフを募り、企画と一緒に盛り上げてくれるメンバーを育成していきたい。</p> <p>また、現在今年度の企画をベースとした連続講座を企画立案中。今年度は川崎市教育委員会さんが進めている空き教室の有効活用事業ともご縁があったので、今後は子どもたちの慣れ親しんだ学びの場である「学校」も活用させていただきながら、継続的な企画の運営をしていきたい。</p>



顕微鏡をのぞき込む子どもたち(ミクロの世界)



かわさきマイスターの親方とのごぎりを引く子



参加者とスタッフとして参加してくれた過去の企画参加者

団体名	モモの会
事業名	電話による傾聴「モモの会」

目的・背景

年々高齢化率が高まり、長寿だけど独居で寂しい、病気があり、外出がままならない高齢者が増え続けている川崎市において孤独死を防ぐ事も念頭に、一人暮らしの高齢者、自宅から出にくい状況にいる人達、コロナ禍でおしゃべりをする機会が少なくなりストレスを溜めている人達と電話で話をする事で少しでも気持ちが楽になり元気になって人と交わり、住み慣れた地域でいつまでも安心して過ごしたいと思う人が増えることの一役を願ってます。

創立の時から継続している会員から電話を架けて話をする事は、現在、川崎市内で1人暮らしをしている親御さんに息子さんと娘さん、お嫁さん、地域包括支援センター、ケマネさんからも架電の依頼を受け、週1決まった曜日、時間に架電しています。

事業の効果

一人暮らしの人でも継続的に話をしていくと、次第に明るく、元気になっていき、おしゃべりの大事さに気付いたとか、デイサービスの話を家族は聞いてくれないが、話しをしていく内自分の立場を受容し、自己肯定感をもち、デイサービスでの自分の役割を楽しむようになった。死にたいとばかり話していた人が次第に気持ちが明るくなり、数か月後には“死”を言わなくなり、少しずつ前向きになって楽しい事を話すようになっていく。精神的病に辛い思いをしている人達は継続的に話す事により、いつも聴いてくれる人がいるのはとても嬉しいと喜んでくれる。架電している人達からは毎週の電話を楽しみにしているといわれる。継続的に話をする事は、人に対して信頼感、安心感を持ち、社会的な健康度をあげて元気な高齢者が増えることに繋がると思います。

実施結果

受電数: 2022年4月～2022年3月15日 638 件
架電数: " 398 件
いずれも目標数には達したがリピーターが増えている。

電話でのアンケート

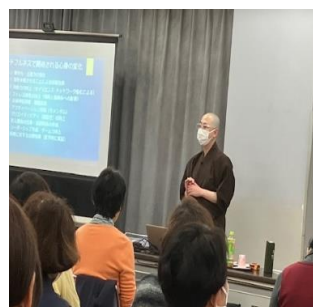
☆モモの会に電話しての満足度 93%
☆話しやすかったですか? 90%
☆よく聴いて貰えたと思うか? 95%
☆モモの会を必要と思うか? 96%

事業の課題と今後の展望

*電話の(受電、架電件数は目標に達したがリピーターが増えている為、電話の通話料が無料であり、どんな状況にいる人達からも電話を受けたり、必要な人には会の方から電話を架けることのできる活動であることを広く知らせる為、川崎プロボノ部に応募し、広報を拡げる相談をした。(2022年11月～2023年1月)応援ナビの更新、報告作成、ふくみみのサイトやロゴマーク入りリーフレットを作成したが(3/2講演会用)、QRコード入りのリーフレット、名刺等は来年度に作成し7区、地域包括支援センター、川崎認知症ネットワークの団体、社協、市民活動センター、いこいの家、町内会等に説明にいき、配布の予定です。



キャプション講演会「心を調える生活習慣



マインドフルネス入門」3/2



講座「電話傾聴の基本を学ぶ」11/17, 12/22

団体名	THE アート・プロジェクト多文化読み聞かせ隊
事業名	多文化表現プロジェクト ～違っているから面白い、おはなしを語る、動く、歌う、踊る～

<p>目的・背景</p> <p>この数年、川崎市では、海外にルーツを持つと思われる方の姿をととも良く目にするようになった。(川崎市の資料によると 2011 年と 2021 年の外国籍市民を比較すると 1.4 倍増加)。川崎市政の場においても、全国に先駆けて「川崎市外国 人市民代表者会議」などが設けられているが、そのような外国籍の人々と市民の交流の機会は少ない。また、障がいのある人々との交流も一般市民はかなり少ない。まず、一般市民を対象にした多文化的な多文化公開講座を開催し、多文化への興味を促す。年度後半には、外国籍市民や障がいのある人々との交流の場を設けて、気軽に距離を縮め、相互理解を深められるようなフェスタを開催する。</p>	<p>事業の効果</p> <p>今まで、海外にルーツを持つ方や障がいのある方に関心がなかったり、接することが無かったりした市民が、そのような方々と交流し、接する機会、相互理解を得る機会を作ることができる。また、海外から日本に来日した方々同士が知り合い、交流する機会も創り出すことができる。多様な文化を理解しあうことができれば、だれもが暮らしやすい平和で、だれひとり取り残さない、持続可能な社会へとつながっていく。</p>
<p>実施結果</p> <p>全8回の連続講座では、第1回のポリビアに始まり、ドイツ、フランス、ブルガリア、ブラジル、イタリア、インドネシア、韓国と講師の出身国や関わりのある地域の多彩な文化を紹介した。各回、文化の紹介としてその地域の食べ物や飲み物を提供し、さらに話題が広がった。参加者同士の交流も盛んに行われ、ほとんどの参加者からポジティブな感想をいただくことができた。ズームも駆使して、来場しなくても多文化講座を楽しんでもらえた。1月末に、それまでの講師や参加者による「多文化表現フェスタ」を二日間にわたって開催した。外国籍を含む読み聞かせ隊メンバーと障がいのある若者たちの演劇グループ、つながり隊が協力してスタッフとして参加者を迎えた。来場者もフェスタで多文化のワークショップやバザーを楽しめた。</p>	<p>事業の課題と今後の展望</p> <p>引き続きのコロナ禍で、来場をためらう方もいらして、主催するこちら、かなり神経を使わなくてはならなかった。ズームに慣れない方もいらして、接続が難しいなどの課題が残った。</p> <p>今年度は、拠点(カフェイズミ)がなくなり、来年度に向けての準備をするには、団体として不安定な状況にある。来年度は、その後に向けての準備期間とし、引き続き、事業を展開していきたいと考えている。</p>



多文化講座 ドイツ



多文化講座 インドネシア



多文化表現フェスタ ワヤン

団体名	川崎盛盛祭実行委員会
事業名	川崎盛盛祭

目的・背景

近年川崎市の目指すリノベーションまちづくりという構想に則り日進町の古い簡易宿泊所がリノベーションされて外国人観光客や女性も宿泊しやすい施設が増えてきました。京急の高架の壁に壁画アートを描いたり、八丁駅前の公開空地を使った神奈川大学と連携したイベントなど、官民連携の取り組みが進む地域です。

羽田空港から川崎殿町にかかる橋も出来上がりつつある中、コロナ後のインバウンド再開も見据えて、今年出来ることとして国内、まずは川崎市民に向けたオモシロイ街づくりの事例のPRとして、イベントを開催したいと考えています

事業の効果

コロナ禍を経て、インバウンドを見据えたイベントと共に地域や川崎のブランドづくり、街の仲間づくりという要素を加えて起業したい、アートを展示したいなど、アウトプットの場としてデビューを飾れるようなイベントとしていきたいと考えていますが、これまでのイベント開催では、収支が合っていません。助成金を活用しながら継続することで、仲間となるプレイヤーを増やし、その後自走して継続、発展していける取組としてための事業スキーム(イベント出店料、地域のお祭として地元企業PRの協賛金を募る形などを)今後確立したいと考えています。

実施結果

幻のイベントとなるところでしたが、延期日程を複数用意する事で開催ができました。

協賛金も一社ですが、得ることが出来ました。

史上初の場所で開催が出来ました。

イベント参加者は250名を超えて日進町のネガティブなイメージを払拭できるようなイベントになったと思います。

川崎小学校のポスター展示やPTAのポスターも掲示する事で小学校からの来場者も多かったです。

当日の様子動画も残せましたので、来年度以降の出店者、出演者募集や参画者を増やすためのイメージ付けにとても活用出来る事になりました。

事業の課題と今後の展望

継続していく為には協賛金を得る事、出店料を上げる事課題は多いのですが、出店者より平日に空地を使えないか、別の団体さんよりどうやったらこの空地を利用出来るのか？

開催してみたいんだけど話し聞かせて欲しいなどの声も頂きました。

僕たちでなかったとしても定期的にこの空地を使ったイベントが行われる事で、地域の方々の交流の場、スタートアップの方の出店、出演の機会創出、町の新たな賑わいづくりにこの盛盛祭がきっかけとなっていくこと。

小学校との連携も出来たので小学校やPTAの出店、出演での参加も今後の希望です。



普段の公開空地



イベント当日



イベント当日2

団体名	認定 NPO 法人フリースペースたまりば
事業名	コロナ禍における子ども・若者・その家族のための交流拠点づくり

<p>目的・背景</p> <p>1、子どもたちが自由に子ども同士で集い安心できる居場所がより求められている</p> <p>2、若者たちが地域と関わるきっかけ 一歩踏み出すきっかけづくりの場が限られている</p> <p>3、生活するうえでの「食」の支援の重要性(コロナ禍で深刻化したが今後も更に必要とする家庭は増加傾向にある) ※上記を解決するために「食」を通じたまちの人と人が繋がる居場所を開き続け、より地域や企業と繋がり地域全体で支えていくしくみを構築していく。</p>	<p>事業の効果(アンケートからの声)</p> <p>1、こども若者にとって</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こども☆きっさは保護者も安心な場所と認識されている ⇒家に夕方まで誰もいないのですが、月水金は、子ども喫茶に行けると思うととても気持ちがらくになります。 ・えんくる食堂は地域の人と一緒にご飯が食べられる場となった ⇒子どもと行って子どもがゆっくり過ごせることも、大人の私がおの間雑談出来ることも、全部助かっています。 ・チャレンジ・ラボ 多様な人やことと出会うきっかけになった <p>2、地域の人にとって</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣の農業の方からの寄贈 年5回 ・こども☆きっさ 学生ボランティア登録 5名 ・えんくる食堂ボランティア 3名増加
<p>実施結果</p> <p>① 日常に来場した子どもの数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こども☆きっさ参加者 延べ 1204 名 1日平均 8.3名 <p>② イベントに参加した子ども・若者の数 1044 名</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ イベント参加者 844 名 ・えんくる食堂 782 名(全 1621 名のうち子ども数) ・チャレンジ・ラボ 72 名 ・みんなでキッチン 30 名 ◇ 若者ボランティア 160 名 ・こども☆きっさ 115 名 ・えんくる食堂 45 名 <p>② 運営を支援くださる地域の担い手 72 名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・えんくる食堂 36 名 ・こども☆きっさ 30 名 ・チャレンジ・ラボ 10 名 ・みんなでキッチン 6 名 	<p>事業の課題と今後の展望</p> <p>1、こども☆きっさ 共働き家族が多い中、放課後の子どもの居場所や、保育園帰りの親子が一息いれる居場所が求められている⇒安心して過ごせるように子どもの保護者との関係性も強化し、えんくるの支援者となってもらいしくみづくり</p> <p>2、チャレンジ・ラボ ロールモデルとなる大人との接点が限られているためフリースペースで育った若者たちは将来に不安を感じている⇒少し年上の先輩たちとの交流および同じような悩みを持つ若者の情報交換の場をつくる</p> <p>3、みんなでキッチン 食料・食事を提供するだけでは課題解決にならない対象者に対して一歩踏み込んだ食支援を行っていく⇒時間、お金をかけず、様々な困難を抱えている子どもとその家族が簡単に調理できる料理教室を開催</p>



☆えんくる食堂



◇こども☆きっさ ハロウィンスペシャル



◇チャレンジ・ラボ レジン de ストラップ

団体名	山猫団
事業名	市民参加型ダンス公演「1月29日」

<p>目的・背景</p> <p>当団体が得意とするダンスワークショップは老若男女、知識や経験、身体的特徴を問わず誰にでも取り組めるものであり、組織内での人間関係の円滑化や、精神の安定化に貢献することは認知されてきているが、川崎市では身体表現を市民が体感する場がまだ少なく、その魅力や有用性を市民にアピールできていないことが課題であると考えた。そのようなことから、川崎市内で市民参加型のダンス公演を開催し、市民へ舞台芸術、特にダンスを経験・鑑賞してもらうことで身体表現の可能性を認知してもらい、出演者にはさらなる表現の追求を、鑑賞者には自身の体験機会へと興味を深めてもらうことを目的とした。</p>	<p>事業の効果</p> <p>出演者である一般市民へ、普段の生活以外に表現の場を提供することにより QOL(クオリティオブライフ)の向上を目指した。それを普段芸術に触れることが少ない一般市民が鑑賞することにより、舞台公演(ダンス)への理解が新たな層に対して広がることと、福祉関係者や教育関係者にダンスの有用性を認知してもらうことを狙いとした。</p>
<p>実施結果</p> <p>未経験者からプロまで、小学生から60代までの障害者を含む一般市民が参加し、垣根なく共に踊ったことにより、コミュニケーションツールとしてのダンスの素晴らしさが出演者に深く浸透した。</p> <p>自信を持って舞台上で自分を表現する出演者を目の当たりにした観客からは、驚いた、感動した、涙が止まらなかったといった賛辞が多く寄せられ、アンケートでは9割を超える観客がまた観たいと答え、5割を超える観客が自身も参加してみたいと答えており、表現を通してどんな人でも自己実現が可能であるということを最大限アピールする機会となった。</p>	<p>事業の課題と今後の展望</p> <p>表現を通して自己実現をしていき、QOLの向上を目指すことは、ワークショップなどでも達成できるが、その効果を認知してもらうには劇場公演を行うのが最も効果的であることは今回で実証できた。だが劇場公演を上演するには経済的、時間的、精神的にいくつかのハードルがあり、目的に対して手段が大掛かりすぎるとも言える。</p> <p>一方で、舞台に立つというゴールがあるからこそ出演者が普段は出せない力を出すことができ、それが観客にも伝わるといった側面もある。劇場公演が一時のお祭りになってしまわないよう地道なワークショップ事業を継続しつつ、チケット収入だけでは成立し得ない劇場公演を実施するために、規模や演出の見直しをするとともに、共催・協働先やスポンサーの発掘に取り組む。</p>



公演写真



公演写真



公演写真

団体名	かわさきこども食堂ネットワーク
事業名	こども食堂の持続可能性 ～ おなかも・こころもいっぱい、子ども達に明るい未来を ～

目的・背景

こども食堂という単語ができて、今年度でちょうど10年になる。現在は全国で6000か所以上あるが、1昨年からコロナ禍の影響もあり、活動を取り巻く環境に大きな変化が起きている。特にコロナ禍で増えた企業からの支援について(SDGs関連の支援の取り組み)の報告と、こども食堂での運用事例の紹介を行い、市民への報告を実施する。新たにSDGsの取り組みを検討している地元企業への提案やこども食堂への支援の方向性を提案する。また、これを機に、SDGsについて考える機会を設け、子どもだけでなく広く市民にその内容を知る機会を提供し、コロナ禍で減少しているこども達の体験の場を創出する。イベントを2回開催し、①7月:企業の取り組みや実践しているこども食堂や市民団体の事例紹介と小学生等の夏休みの自由研究のひとつとしてSDGsに関するテーマを提起する。②10月:体験型のSDGsイベントや、文化芸術の鑑賞を平和公園にて開催する。これにより、こども食堂 SDGsの関連性を広く啓発するとともに、そこに集う市民団体の繋がり創出を醸成する。

実施結果

イベント A は、約50名のこども食堂に関心のある方に参加いただき、こども食堂に関するこどもの状況を啓発した。自由研究お助け隊は、約30名のこどもの参加があり、プログラミング講座を実施し、作ったプログラムを持ち帰り、自宅でも継続した学習の場を提供できている。SDGsのテーマについて考えレポートを作成。フォーラムは教職員組合の方の助言を得た。イベントBは、約1500名が来場し、子どもの発表や親子で体験するコーナーを通じてSDGsについて考えるきっかけとなった。このイベントを通じ、環境問題に取り組む団体や、多言語の提供をしている団体との接点があった。

事業の効果

当団体 HP の訪問者数が、22年4月と比較してイベント開催時は2倍に、23年2月の段階で1.5倍と増加した。企業等からの問い合わせは年間25件あり、寄贈品や寄付金が寄せられた。7月の自由研究の取り組みは23年度も継続し開催予定。このイベントのうち合わせの中で、川崎フロンターレとの連携がスタートし、支援企業が増加した。その成果として、NWに参加するこども食堂には、毎月何らかの食品の提供をすることができたが、一次保管のスペースや輸送コスト等の課題が顕著になっている。

こども食堂は、単なる食支援活動ではなく、「食」を中心とした、地域の拠点となっており、多世代が交流し、気軽に地域貢献できる活動である。この活動を継続していくために、中間支援団体としての役割を果たすために、企業・行政・支援団体との連携をより活発にしていきたいと感じた。

事業の課題と今後の展望

こども食堂の運営団体は、増加しているが、相変わらず「食事をする事ができない子どもが食事に行くところ」であると思っている人が多い事。SDGsの観点から、正味期限が短い食品の提供や、企業からの支援も増えつつあるが、一次保管の場所探しや物流について、新たな課題も見えてきている。イベントAで実施した、夏休み自由研究のお助けは、継続して開催できる見込みとなった。フォーラムへの登壇等の打ち合わせ等連絡を取る中で、こども食堂の現状をお伝えする機会も増え、川崎フロンターレを通じた食糧支援が確定し、この報道を受けて、それ以外の企業等からも支援の輪が広がっている。



イベントA-1 かわさきこども食堂フォーラム 集合写真



イベント B かわさきこども食堂ネットワークフォーラム秋 受付



イベントA-②かわさきこども食堂ネットワークフォーラム 春 WS プジョン3

団体名	いろえんぴつプロジェクト
事業名	いろえんぴつ劇場「学校の体育館がみんなの劇場になる日」

目的・背景

本事業の目的は、生活環境や経済の格差によって、感受性を育む体験、心の成長を育む機会に恵まれないまま成長する子どもや、自尊感情が低いと自覚する若者に、「関係性の芸術」と言われる演劇や、「心と体を自由に解放できる」音楽やダンス、その他さまざまな表現活動を行う場を提供し、自らの中にある「表現する力」に気づき、自尊感情を高め、想像力の豊かさ、多様性への共感力、自分らしい表現、そうした「生きていくエネルギー」を育むことである。

事業の効果

- ・障がいの有無にかかわらず、子どもたちが無料で体験でき、芸術鑑賞の経験がなくとも参加できる芸術空間が「自分のためにある」ことを実感できる
- ・インクルーシブな場に参加することで、理屈抜きに多様性の素晴らしさを感じ取ることができる
- ・異なる能力を持つ人たちが連携してつくりあげる空間で、クリエイティブの豊かさを体感することができる
- ・「情報」を得ることよりも「体感」することが、自らの経験として積み重なって行くことを実感してもらえる
- ・プロの表現者(当団体のクリエイティブパートナー)による指導で、それぞれの個性から引き出される「表現する力」に、一人ひとりが自ら気づきを得ることが出来、自尊感情を高めることができる
- ・クリエイターや表現者の活動の場として、一助になる

実施結果

- 寺子屋を運営する NPO 法人や障がい児支援を行うネットワーク団体と連携し、新たな体験プログラムの実施や舞台公演の新たな開催場所を得ることができた
- 目標通り2校での舞台公演開催。中原区「今井小学校」での開催に加え、高津区の特別支援学校「中央支援学校」で初の公演実施
 - ・観客数 300 人(中央/147 人・今井 153 人)
 - ・ダンス参加者数 17 人(2回)・出演者 12 人(2回)
 - ・舞台スタッフ3人(2回)・記録撮影スタッフ 2 人(2回)・運営スタッフ7人(2回) 参加延べ総数 382 人
- 表現体験の場(声優編・イラストレーター編)や劇中参加のダンスレッスンに、多数の子ども、若者が参加し当団体クリエイティブパートナーの指導で達成感や憧れを抱く場を作ることができた 子どもの参加延べ総数 131 人
- これまでのオリジナル商品に加え、オリジナルデザインによるTシャツの予約販売も開始
- 団体スタッフが在職する企業の寄付制度に応募し、在籍社員の推薦数で確定する寄付を受けることができた

事業の課題と今後の展望

- 【課題】企画事業の増加に伴う制作人員数と制作運営費を安定させること、プロジェクトの同時進行に伴いスケジュール管理を共有すること
- ・市内での実施数⇒実施回数が増え、市外からも要請を受けるようになった(委託事業として)。今年は団体を法人化し、有料のイベントを開催する計画である。
 - ・制作運営費や制作人員数を増やす努力を今後も続ける。
 - ・今後も連携できる団体や俳優所属事務所と協働し、ワークショップなどの場作りを続けていく
 - ・今年度、当団体の取り組みに興味を持って部分的な手伝いなどに加わった若者や、正式な参加を希望する人が生まれた。次年度は、さらに興味を持って参加する人が増やす機会を作る計画である
 - ・過去プロジェクトの出演者やクリエイターとも引き続き連携し、今後もクリエイティブパートナーとのネットワークを広げながら、アイデア交換を続け、クリエイティブな場を作っていきたい



寺子屋事業との連携で、クリエイティブパートナーである声優、アニメ監督、イラストレーター。彼らの仕事に触れ、彼らの指導により子どもたちがプロの仕事を実体験



ジジキッズと呼ばれる劇中参加のダンスチーム。障がいの有無に関わらず、誰もが参加できるインクルーシブなダンスチームは、レッスンを重ねてプロの俳優らと同じステージに立つ



学校の体育館を劇場にする試みは、この日のために集うメンバーがワンチームとなって、一期一会の芸術空間をつくり、そこに観客が参加して完成する。企画の意図も浸透してきた

団体名	さんごのからだ
事業名	妊娠・出産が女性の体力・身体機能に関わる影響の検証～体力測定を用いて～

<p>目的・背景</p> <p>妊娠や育児により、女性は運動機会を持ちにくいことが予想されるが、Women's Body Labo が過去 4 年に渡り実施した「産前産後女性のためのからだケア講座」の参加者のうち 50-60%が体の不調（肩こり、腰痛、尿もれなど）を抱えていた。一方コラボ団体の神戸 WITH が持つ調査結果として、産後の女性の体力や身体機能の基礎データはないという知見もあった。そこで、コラボ 50 の事業を通して①産後女性の心身の状況を数値化する、②産後女性が自分の状態に気付く機会を提供する③周囲の関係者も産後女性のケアの必要性や対策を考える根拠とする④以上を踏まえ女性の運動機会獲得の推進へ繋げ、最終的には元気な母親や子どもたちが増えることを目的とする。</p>	<p>事業の効果</p> <p>3 月 5 日に実施した報告会において回収したアンケートにおいて以下のような結果を得た。（「印象に残ったこと」への回答より抜粋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産後の体力低下をデータに示していただけて分かりやすかったです ・産前からのケアの重要性を認識しました。 ・産後はついつい運動を頑張らない！と焦ってしまいますが、栄養や休息もとても大切なことがわかりました ・まずは自分自身の体を知ることで対応が可能であると思いました。 ・産後の「辛さ」が数値として現れていたこと <p>以上より、目的としていたデータ化→客観的な理解→当事者の気づき→産後女性のケアの必要性を考える、という目標に近づいたと思われる。</p>
<p>実施結果</p> <p>2022 年 4 月～2023 年 3 月までの 1 年間で川崎・神戸にて 57 件の体力チェックを行った(2020 年から 3 年間で累計 153 件)。</p> <p>その結果、参加女性の 7 割りがロコモティブシンドロームに該当し、握力・長座位前屈はやや全国平均を下回るという結果であった。得られた結果については 2023 年 3 月 5 日にオンライン報告会 & からだケアミニ講座を実施し、87 名の参加があった。報告会と同時に地域の産後女性に関わる支援者への情報提供として、「産後ロコモを知らう！」(有料セミナー)を実施、48 名の参加があった。</p> <p>新規事業として体力チェックの実施をサポートする“サポーター”(運動指導者対象)、エクササイズを参加者と一緒に実施できる”アドバイザー“(一般対象)は川崎3名、神戸2名の養成を実施した。</p>	<p>事業の課題と今後の展望</p> <p>産後女性の辛い、しんどい、体力低下の可視化がある程度可能となったが、目標データ数の不足もあり(目標 300 件)今後も引き続き体力チェックを実施する。</p> <p>また運動の機会を提供するため、動画「さんごの1分間エクササイズ」など手軽に継続して実施できる機会を提供したり、地域の子育て支援者との繋がり場を作るオンラインコミュニティの開催も検討する。</p> <p>また、今後より多くの体力チェックの場を広げるため、サポーター・アドバイザーも徐々に増やす方針である。</p>



産後ママの体力チェック



産後体力チェック報告会<オンライン>



さんご1分間エクササイズ

団体名	リボーンプロジェクト
事業名	リ・ボーン ワークショップ - 不用な端材の「新」活用による工作ワークショップ -

<p>目的・背景</p> <p>コロナ禍で増加している手作り体験欲求にこたえるため、3500 社弱の製造業事業者が存在する川崎市のリソースを活用し、住民参加型の端材工作ワークショップ（端材を新しく生まれ変わらせる『リボーン』ワークショップと命名）を実施</p>	<p>事業の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・端材を提供してくれる企業と、その端材を活用した作品サンプルの開発、さらに、そのサンプルを参考にした工作ワークショップを複数回開催したことで、下記効果を想定していた。 ・企業側は、端材を廃棄するのではなく、新しい活用方法を認識していただく。 ・クリエイター側には、端材を活用した、新たな作品作りに挑戦していただく。 ・一般人は、捨てられる材料に新たな価値を付加できる喜びを感じていただく。
<p>実施結果</p> <p>10/1 麻生区王禅寺公園にて、一回目のフェスティバル開催(ブース数、8 件)</p> <p>11/5 中原区ジェクト駐車場で、二回目のフェスティバル開催(ブース数、10 件)</p> <p>・参加人数 合計 336 人</p>	<p>事業の課題と今後の展望</p> <p>今年度は、ワークショップ総数、20件を予定していたため、想定数をクリアするのに苦労した。</p> <p>また、ワークショップ数が多いため、開催スペースを広めにとる必要があり、そのスペースを確保できる場所、日程等の調整に苦労した。</p> <p>端材提供を協力してくれる企業への「提案力」がまだ、弱いことが課題である。</p> <p>上記課題を解決するために、川崎市 SDGs プラットフォームのスキームを活用し、提案力を高めたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・端材そのものを触る機会を作りたい ・端材活用作品の募集、コンテストなどを実施したい



10/1 麻生区王禅寺公園での実施



子供と一緒に作品作り



11/5 中原区での実施風景キャプション3